

平成 17 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 17 年 2 月 10 日

会社名 株式会社 大戸屋 (JASDAQ ・ コード番号 : 2 7 0 5)
 (URL <http://www.ootoya.com/>)
 代 表 者 役職名 代表取締役社長
 氏 名 三 森 久 実
 問い合わせ先責任者 役職名 経営企画部長
 氏 名 濱 田 寛 明
 T E L : (0 3) 5 2 0 6 - 7 5 0 0

1 . 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (内容)
 法人税等の計上基準については、法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。
 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有
 (内容)
 退職給付債務の計算方法について、簡便法から原則法に変更しております。
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2 . 平成 17 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況（平成 16 年 4 月 1 日 ~ 平成 16 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

(注)金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売 上 高		営 業 利 益		経 常 利 益		四 半 期 (当 期) 純 利 益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17 年 3 月 期 第 3 四 半 期	10,104	()	128	()	116	()	41	()
16 年 3 月 期 第 3 四 半 期	()	()	()	()	()	()	()	()
(参考)16 年 3 月 期	11,887		431		424		220	

	1 株 当 た り 四 半 期 (当 期) 純 利 益	潜 在 株 式 調 整 後 1 株 当 た り 四 半 期 (当 期) 純 利 益
	円 銭	円 銭
17 年 3 月 期 第 3 四 半 期	8 14	
16 年 3 月 期 第 3 四 半 期		
(参考)16 年 3 月 期	36 94	

(注) 当第 1 四半期より四半期財務・業績の概況（連結）の開示を行っておりますので、前年同四半期の経営成績及び増減率については記載しておりません。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期における我が国経済は、輸出を牽引役とする企業収益の改善と民間設備投資の増加等により、景気は回復基調にありましたが、天候不順や原油価格の高騰等の影響もあり、経済成長率はやや鈍化して参りました。また、個人消費につきましても、回復感に欠ける状況で推移いたしました。

外食産業におきましては、市場規模が縮小する中、顧客獲得に向けた企業間競争の激化やコンビニエンスストア等の中食市場との競合等により、経営環境は引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社は、商品に対する安全性の向上〔トレーサビリティ（履歴管理）の充実、衛生管理検査の充実〕、品質（クオリティ）の向上〔食材の鮮度・温度管理、冷凍食材の解凍方法検証と実践、商品提供時の適温管理及び適正在庫管理〕、人材の育成・強化を当期の重点課題と位置付けて経営に取り組んでおります。

こうした課題に真摯に対応することにより、“仕入から物流そして店舗オペレーションに至るまで”の『総合オペレーション』で他社との差別化を図り、当社の優位性である「店内調理による高品質な商品提供」を実践して参りたいと考えております。

当第3四半期は、10月にグランドメニューの改定を行い、顧客満足度の向上を図ると共に、適正な商品原価率の追及にも鋭意取り組んで参りました。また、ビジネス街、ショッピングセンター、ロードサイドを中心に、直営店5店舗（虎ノ門店、ベルモール宇都宮店、和戸店、ピビットスクエア南船橋店、高幡不動SC店）及び、フランチャイズ（FC）店4店舗（みなとみらいビジネススクエア店、藤沢駅前店、イオン与野SC店、福岡西新店）の新規出店を行う一方、直営店1店舗（神田小川町店）を閉店したため、当第3四半期末稼働店舗数は直営店124店舗、及び、FC店20店舗の合計144店舗となりました。なお、上期中に新規出店いたしました5店舗を含む新規直営店10店舗の売上高は400百万円となり、販売形態別では、飲食部門の売上高が9,441百万円、FC部門の売上高は663百万円となりました。

当第3四半期における新たな取組みといたしましては、12月に、旬の近海魚を使用した「長崎港 天然白甘鯛の炭火焼き定食」を期間限定・数量限定で販売し、“高品質・高付加価値の商品を適正価格（税込892円）でご提供する”という試みを行いました。また、“to orderで（ご注文を頂いてから）煮付ける”という調理オペレーションを採用した、当社初の煮魚定食「能登の天然ブリの煮付け定食」を販売し、他社との差別化を図る戦略商品として、今後の商品開発の裾野を拡げて参りました。

こうした、「品質の追及」のための取組みを実践する中、当四半期の既存店舗（開店後満13ヵ月を経た店舗）の月次売上高昨年対比増減率は、10月は1.5%の減少でありましたが、11月は2.7%増、12月は1.0%増と、2ヵ月連続して100%を超える水準で推移してきております。

これらの結果、当第3四半期の連結売上高は10,104百万円、営業利益128百万円、経常利益116百万円、当第3四半期純利益41百万円となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

（注）金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	5,321	1,711	32.2	335 65
16年3月期第3四半期				
(参考)16年3月期	5,009	1,754	35.0	337 82

（注）当第1四半期より四半期財務・業績の概況（連結）の開示を行っておりますので、前年同四半期の財政状態については記載しておりません。

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

総資産は5,321百万円となり前連結会計年度末に比べて311百万円増加いたしました。これは、流動資産における現預金の増加64百万円、建物及び構築物等の有形固定資産の増加155百万円が主な要因であります。また、株主資本は1,711百万円となり、株主資本比率は32.2%となりました。

[参 考]

平成 17 年 3 月期の連結業績予想（平成 16 年 4 月 1 日 ～ 平成 17 年 3 月 31 日）

（注）金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期	百万円 13,457	百万円 233	百万円 71

（参考）1 株当たり予想当期純利益（通期） 7 円 83 銭

[業績予想に関する定性的情報等]

平成 16 年 11 月 18 日の中間決算発表時に公表いたしました、平成 17 年 3 月期の通期の連結業績予想は上記のとおりであり、現時点では本業績予想に変更はありません。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の事業環境、経済状況の変化等様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

添付資料

要約四半期連結貸借対照表

要約四半期連結損益計算書

以 上

〔添付資料〕

1. 要約四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当四半期 (平成 17 年 3 月期第 3 四半期末)		(参考) 平成 16 年 3 月期	
	金 額	構成比(%)	金 額	構成比(%)
(資産の部)				
流動資産	1,093	20.6	947	18.9
固定資産	4,227	79.4	4,062	81.1
資 産 合 計	5,321	100.0	5,009	100.0
(負債の部)				
流動負債	2,571	48.3	2,191	43.8
固定負債	1,023	19.3	1,042	20.8
負 債 合 計	3,595	67.6	3,234	64.6
(少数株主持分)				
少数株主持分	13	0.2	20	0.4
(資本の部)				
資本合計	1,711	32.2	1,754	35.0
負債、少数株主持分及び資本合計	5,321	100.0	5,009	100.0

2. 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当四半期 (平成 17 年 3 月期第 3 四半期)		(参考) 平成 16 年 3 月期	
	金 額	百分比(%)	金 額	百分比(%)
売上高	10,104	100.0	11,887	100.0
売上原価	3,401	33.7	3,821	32.1
売上総利益	6,702	66.3	8,066	67.9
販売費及び一般管理費	6,574	65.0	7,634	64.3
営業利益	128	1.3	431	3.6
営業外収益	21	0.1	31	0.3
営業外費用	32	0.3	38	0.3
経常利益	116	1.1	424	3.6
特別利益	59	0.6	42	0.4
特別損失	116	1.1	42	0.4
税金等調整前四半期(当期)純利益	58	0.6	425	3.6
税金費用	22	0.2	205	1.7
少数株主損失	4	0.0	-	-
四半期(当期)純利益	41	0.4	220	1.9